

# 横浜市内のヒトスジシマカ成虫生息状況調査結果 —平成26年6～8月(中間報告)—

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として、主に市内公園および港湾地区等において感染症媒介蚊生息状況調査を行っています。平成26年度は、6月から10月まで横浜市内19ヶ所(各8回)で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行っています(図1)。調査には、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用いました(写真1)。蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根の付近に設置し、トラップを原則として一昼夜運転しました。捕獲された蚊は調査地点ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。今回は、市内におけるヒトスジシマカ成虫生息状況調査結果(6～8月:上期分)について報告します。



写真1 CDC型ライトトラップ

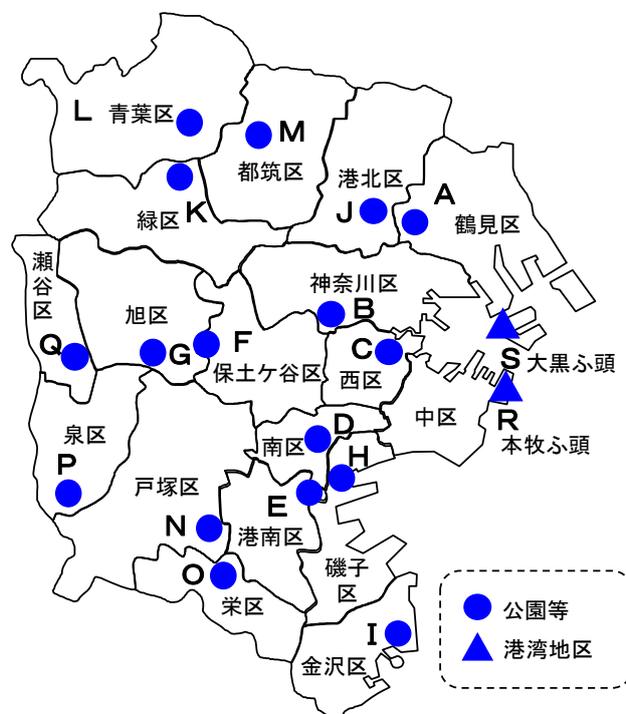


図1 蚊成虫捕獲調査地点

## 〈捕獲されたヒトスジシマカ成虫の個体数およびウイルス検査結果〉

捕獲されたヒトスジシマカ成虫の個体数を表1に示しました。19調査地点、4回までに捕獲されたヒトスジシマカ成虫の雌雄合計は、3,079個体でした。

表1 捕獲されたヒトスジシマカ成虫の個体数

属	種	調査回および時期	個体数		
			雌	雄	合計
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	1回目(6月下旬)	144	11	155
		2回目(7月上旬)	341	18	359
		3回目(7月中旬～下旬)	1,270	170	1,440
		4回目(7月下旬～8月上旬)	958	167	1,125
合計			2,713	366	3,079
デングウイルス検査結果			全て(-)		



吸血する雌成虫について、デングウイルス検査を実施したところ、全て陰性でした。

ヒトスジシマカの捕獲状況は、調査初回の6月下旬は、全調査地点の合計が155個体でしたが、7月中旬～下旬には、1,270個体と多くなりました。ヒトスジシマカは、黒色の背中に白いスジがある蚊です。昼間屋外などで吸血にくる種類で(昼間吸血性)、デング熱やチクングニア熱等を媒介すると考えられています。

例年の調査では、ヒトスジシマカは、7月～9月上旬に多く、10月頃まで活動がみられるので、蚊に刺されないために、屋外での作業時には、虫よけ剤を使用する・肌の露出をさけるなどの対策が有効です。

### 〈調査地点別のヒトスジシマカ成虫捕獲数〉

調査地点別のヒトスジシマカ捕獲数を図2に示しました。4回目までの調査で最も多く捕獲されたのは、西区内公園(C)で902個体、次いで磯子区内公園(H)で312個体、鶴見区大黒ふ頭(S)で283個体でした。一方、最も少なかったのは、中区本牧ふ頭(R)で4個体でした。

ヒトスジシマカ成虫はわずかな距離しか飛ばないといわれており、発生源近くの木陰、繁みなどに静止し、人などの吸血源が近づくとじっと待っています。幼虫は、雨水枡、植木鉢の水受け、古タイヤ、空き缶、バケツ、花立など、小さな水たまりでも発育するため、発生源となりうる場所は非常に多くあります。まずは蚊を増やさないようにすることが、疾病予防対策として重要です。発生源となる身の回りの水たまりを放置せず、こまめに取り除きましょう。

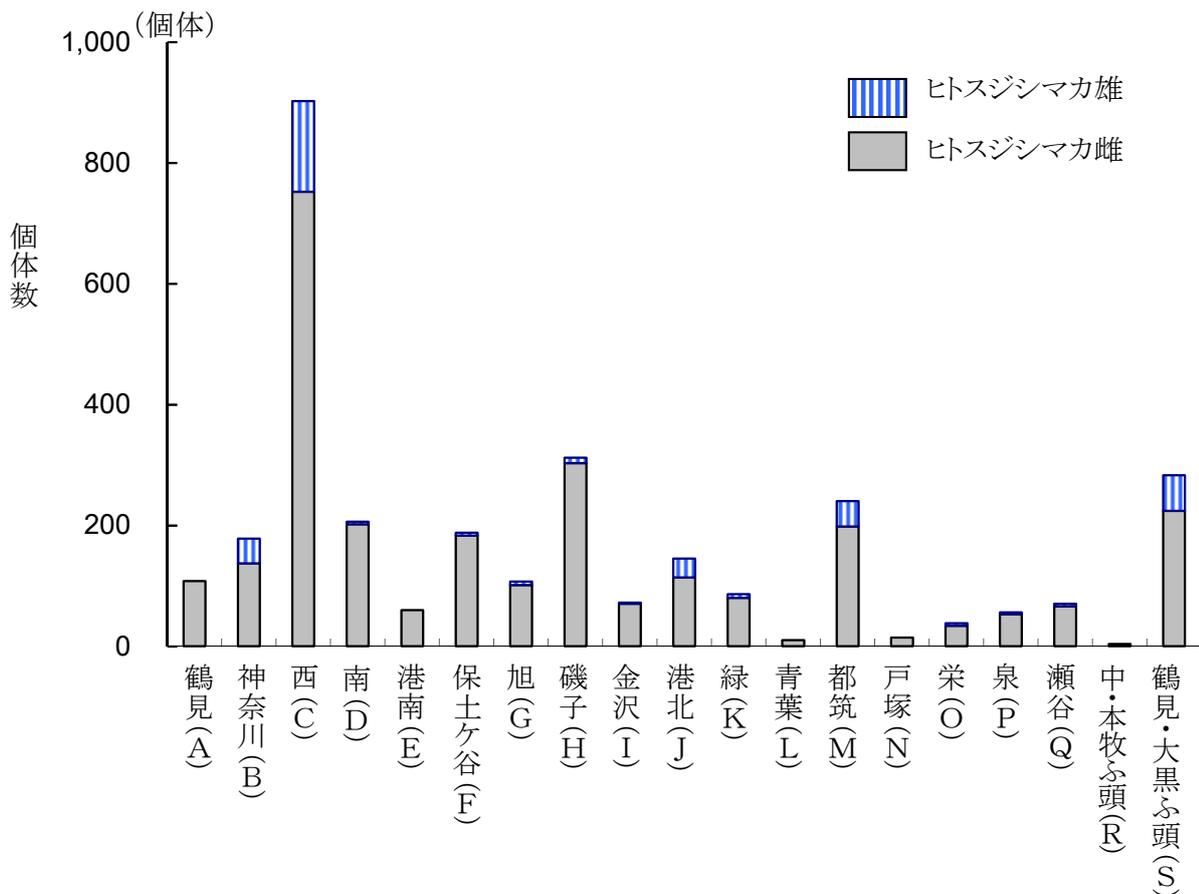


図2 調査地点別の蚊捕獲数